

平成26年度我孫子市男女共同参画審議会 議事録

- 1 会議の名称 我孫子市男女共同参画審議会
- 2 開催日時 平成26年7月23日（水）午前10時00分～11時20分
- 3 開催場所 議事堂 第1委員会室
- 4 出席者 大村芳昭委員 宇野真理子委員 鈴木寿幸委員 栗原千鶴委員
大炊三枝子委員 池田尚史委員 福島慎太郎委員 市之瀬啓之委員
吉野千恵子委員 吉田公子委員

欠席者 柚木理子委員

事務局 市長 日暮総務部長 磯辺秘書広報課長 斉藤男女共同参画室長
海老原主任 大島男女共同参画推進員

- 5 傍聴者 0人

6 議題

- (1) 平成25年度事業の実績報告について
(2) 平成26年度実施計画について
(3) その他

7 会議の概要

委嘱状交付（机上配布）

市長挨拶

委員自己紹介

事務局自己紹介

会長、副会長選任

互選により、大村委員を会長、宇野委員を副会長に選任した。

会長、副会長挨拶

議事

- (1) 平成25年度事業の実績報告について

事務局からの説明（全98事業のうち、11事業を説明）

No.1「自治会、まちづくり協議会等における女性の参画の働きかけ」（市民活動支援課）

No.2「自主防災組織における女性の参画の働きかけ」（市民安全課）

No.32「女性の視点を盛り込んだ防災計画の整備」（市民安全課）

No.33「女性の視点を盛り込んだ防災計画の整備」（同）

No.34「女性消防団員の拡充」（警防課）

No.61「一時預かり保育」～No.69「あかちゃんステーションの促進」（保育課）

市対象事業①「審議会への女性委員の登用」（秘書広報課）

同②「行政委員会への女性委員の登用」（秘書広報課・関係課）

同③「市女性管理職の登用」（総務課）

同⑪「育児休業・介護及び看護休暇の男性取得」（総務課）

同⑫「ボランティア休暇」（同）

委員からの意見・質問等

【大村委員】No.8「男女共同参画に関する学習講座」について、廃止ということであるが、具体的な見直し内容を教えてほしい。

【事務局】費用対効果ということで昨年度事業仕分けの対象となった経緯がある。女性を磨くためのさまざまな要素が入った連続講座であり、提案型民営化サービス制度によって運営されていたが、開始後3年が経ち昨年は見直し時期にあたっていた。再提案をお願いしたが、再提案がなく、ほかに対応する事業者もあがってこなかった。新しい実施計画の中では、生涯学習の各講座において、男女共同参画の視点を盛り込むよう、依頼している。

【吉田委員】No.21「民間一時保護施設への支援」について、ふくろうの家のシェルターが閉鎖とある。テレビ報道を見て大切な機能だと思ったが、今後はどうするのか。

【事務局】民間シェルターは経営が厳しいと聞いている。ふくろうの家も我孫子、柏の両市から補助を受けながら続けていたが、3月末でシェルターは閉鎖した。ただし相談業務は継続している。実際に我孫子市の人がDV等から避難するには身の安全のため、隣接市ではなく、できるだけ遠くに逃げる必要がある。

【宇野委員】No.1「自治会、まちづくり協議会等に女性役員の登用を働きかける」について、自治会の女性役員について、今回は間に合わなかったということであるが、毎年きちんと出してほしい。担当課に依頼してフォーマットを作り、ルール化したほうがよい。自主防災組織など、市民生活に直結する部分でも、女性役員登用への配慮をお願いしたい。

【事務局】内閣府からも避難所設営など防災における女性の視点が重要との提言が出されている。役員の女性登用について、働きかけていきたい。また、女性だけでな

く、障害をもつなどの要支援者への配慮も合わせて重要と考えている。

【宇野委員】 自主防災組織については、女性が関わらないといけない事業部を検討してはどうか。組織再編を考えないと、女性の参画は難しいと思う。

【事務局】 女性の視点を取り入れる重要性を継続的に呼び掛けていく。

【大村委員】 たとえば No. 9「男女共同参画講演会」では、参加者の満足度アンケートをとって「事業の成果」に反映させているようだが、アンケートは毎回とっているのか。ほかの事業ではどうか。アンケート集計など数値で表してもらわないと、成果として「成果があった」かどうか、の基準があいまいで、確認できない。

【事務局】 男女共同参画講演会では、毎回アンケートをとっている。数字で表せないものもあるが、アンケートが実施できるものは担当課によびかけ、極力客観的データとして評価し、成果に反映させていきたい。

【大炊委員】 No. 34「女性消防団員の拡充」について、現在1人という女性団員は勇気のある方だと思うが、どういう方なのか。消防団員は力仕事で男性のものというイメージがあって、女性は参加しづらいかと思うが、女性の視点が必要であり増えてほしいと思う。

【事務局】 「広報あびこ」2月16日号1面・消防団特集に登場してもらった。現役の小学校の先生であり、防災士の資格も持っている。子どもたちに防災について教える時、知識と経験を持っていたいとの気持ちで入団したと聞いている。快く協力してくれる方なので、またアイデアをもらいながら、PRに努めたい。

【宇野委員】 女性消防団員が教員であることに関連して、市対象事業⑫「ボランティア休暇」にもあるが、教員が活動する場合は有給休暇を使い、ボランティア休暇が使われていない。貴重な人材が思う存分活動できるために、制度活用の機運をおこしてもらいたい。

【市之瀬委員】 ボランティア休暇が学校現場で取りづらいのは、子どもの授業を自習にしないといけないためである。補充要員を入れるなどで子どもたちが自習にならない方法でボランティア休暇が取れる制度があればよい。

【鈴木委員】 社会福祉協議会では人工透析者の送迎に市職員30人位にボランティア登録してもらっているが、時間が短いため、有給休暇を使っているようだ。

【宇野委員】 ボランティア休暇が時間単位で取得できるようになったらよいのではないかな。

【宇野委員】 No. 13「教育相談」やNo. 14「父親対象の育児に関する学級」は、育児や教育に関わりたいという父親が年々増加している実態であるにも関わらず「現状どおり」という結果である。休日開催など体制を整えていく必要がある。

【事務局】 以前休日開催をしたこともあったが参加者が伸びなかった。予約制などにすればよいかもしれない。

【大村委員】改善の余地があると思われる。

【宇野委員】予約制にするなら、ネット予約もいいと思う。教育は重要なので考えてほしい。アメリカでは夫婦そろって参加するのが当たり前と聞く。

【市之瀬委員】学校でも土曜の授業参加は父親の割合が圧倒的に高くなる。父親の参加しやすい環境づくりが必要。

【吉田委員】No. 62「延長保育」について、延長保育をやっている園でも、一般保育の人と延長保育の人の区別なく募集しているのか。ファミリーサポート登録をして夜間に子どもたちをお預かりしている関係から、夜間の保育士や収支がうまくいっているのか気がかり。

【事務局】延長保育利用者を特に区別して募集はしていない。収支のことは不明。確認しておく。

【吉田委員】No. 78「老人福祉センター健康相談」は、施設を利用する割に見かけないが、定期的に行っているのか。

【事務局】年間24回、定期実施している。保健師が相談に応じている。

(2) 平成26年度実施計画について、および全般について

事務局からの説明

今年度から5年間の後期計画がスタートした。見直しにより85事業となったが基本的な内容は前期と同じ。モデル事業だった「enjoy パパ応援プロジェクト」がNo. 20として新規事業に加わった。

委員からの意見・質問等

【栗原委員】新聞購読をしていない子育て世帯が増えていて、「広報あびこ」だけでは必要な時、必要な人に情報が届かない。新聞など手元で見るものは見た人限りなので、保育園などの掲示板とか、情報を届けたい人の目に付くところにポスター掲示するなどの方法も効果的だと思う。

【事務局】「広報あびこ」は情報源として圧倒的な利用数であり、新聞購読をしていない方には宅配も行っている。ポスターやちらしのほか、ホームページ、フェイスブック、ツイッターといった若い世代が利用しやすい情報媒体や、ママ友・パパ友同士の情報交換の場など、あらゆる手段で情報伝達に努めたい。

【池田委員】子育て支援関係は充実しているように思われるが、介護についても計画に厚く盛り込んでもらいたい。昨年、共働きで父の介護をした経験から、高齢者なんでも相談を利用しながらも、介護認定が間に合わないなど苦労が多かった。

【事務局】介護は人によってケースバイケースではあるが、社会保障制度の枠組みの中で、最大限に対応しようと努めている。当計画の中では介護における男女共同参

画の視点を啓発していきたい。また、9月には介護をテーマとした講演会を市民団体との共催で実施する。

【宇野委員】ひとり親家庭に対する女性の就業支援など、相談数の割に申請が少ない。計画にあがっているのに実績がないものはその経過に問題があるはずで、その分析を担当課にお願いしたい。

(3) その他

【事務局】多くの意見をいただき感謝申し上げます。今年度は計画の策定がないため、この会議1回で終了予定である。しかし、特別な事案が発生した場合は随時開催する。審議会開催に係らず、ご意見、ご提案があれば、担当までご連絡願いたい。

11時20分終了